

新茶マラソン

「つま恋で来年も」

毎日
28.12.27

ヤマハ幹部 掛川市長に報告

25日に営業を終了した「ヤマハリゾートつま恋」(掛川市)の経営母体・ヤマハ(浜松市)人事・総務本部の高井正人本部長が26日、掛川市役所で松井三郎市長と面会。毎年4月に同施設をメイン会場に開催してきた「掛川・新茶マラソン」(同市などの実行委主催)について、「来年も例年通りつま恋を使って開催できるようにする」と報告した。

【井上知大、舟津進、沢田均】

HMIへ譲渡 正式発表へ



掛川市長に説明後、報道陣の質問に答えるヤマハ人事・総務本部の高井本部長(掛川市役所で)

ヤマハはつま恋の営業譲渡に向けホテルマネジメントインターナショナル(HMI、神戸市)と協議を進めており、関係者によると、近く正式発表する見通し。

松井市長との面会后、報道陣の取材に応じた高井本部長は、営業譲渡についてHMI社など複数の企業と協議中とした上で「譲渡先がどこであるうと、新茶マラソンをつま恋でできるようにお願いする。譲渡先が4月まで決まらなくても、ヤマハとして施設を提供したい」と話した。

一方、掛川市がヤマハに要望している、施設の一括譲渡や「つま恋」の名称存続については「当然交渉の中で要望はしている」と述べるにとどめた。

松井市長は「最も気になっていた、新茶マラソンをつま恋で開催

できるという、うれしい報告だった。例年以上に素晴らしい大会にしたいといけない」と話した。譲渡交渉については「基本合意に至っていないと聞いたが、詳しい話は出なかった。市民も安心するので、なるべく早く譲渡先が決まるといいと思う」と語った。

「掛川マラソン」開催 ヤマハ、来年も協力

市長に意向伝える
日経 28.12.27

ヤマハの高井正人執行役員は26日、リゾート施設「ヤマハリゾートつまま恋」が25日で一般営業を終了したことを受け、掛川市役所で松井三郎掛川市長と面会した。施設の敷地がコースの一部となっている「掛川・新茶マラソン」の開催を危ぶむ声もあったが、ヤマハの高井執行役員は「会場を提供したい」と協力する意向を伝えた。

ヤマハは全国50カ所以上にホテルや旅館を持つホテルマネージメントインターナショナル(HMIホテルグループ)を軸に、つまま恋の譲渡交渉を進めている。

「ヤマハは全国50カ所以上にホテルや旅館を持つホテルマネージメントインターナショナル(HMIホテルグループ)を軸に、つまま恋の譲渡交渉を進めている。」と話した。

新茶マラソン開催へ

つまま恋発着 ヤマハ側が配慮

中日 28.12.27

ヤマハリゾートつまま恋(掛川市満水)の営業終了に伴い、親会社のヤマハの高井正人執行役員らが二十六日、掛川市役所を訪れ、松井三郎市長と面会した。来年四月九日につ

つまま恋を発着点とする「掛川・新茶マラソン」の開催が危ぶまれていた問題で、当日の会場使用ができるよう配慮する考えを伝え、会場使用のめどが立ったことから、二十七日夜の実行委員会で正式に開催が決定される見通しとなった。

高井執行役員は取材に対し、つまま恋の譲渡先候補との交渉の中で新茶マラソン開催への協力を要請していることを明言。「仮に交渉がうまくいかなかったとしても、場所の提供については協力させていただく」と述べた。

松井市長は「ヤマハ側の理解がいただけたことをありがたく思っ

ている。例年以上に素早い」と意欲を示した。晴らしい大会にした (土屋祐二)

つま恋譲渡先HMI有力

28.12.27

読心

ヤマハ側、掛川市長に説明

一般営業を終了し、42年の歴史に幕を下ろした「ヤマハリゾートつま恋」（掛川市）の現状について、親会社のヤマハ幹部が26日、掛川市役所を訪れ、松井三郎市長に説明した。会談後、記者団の取材に応じた高井正人執行役員は、ホテルマネジメントインターナショナル（HMIホテルグループ、神戸市）が有力候補であることを認めた上で、譲渡に向け、詰めの交渉を進めていることを明らかにした。

つま恋についても協議しているといわれる。

1998年に設立されたHMIは、全国50か所以上でホテルや旅館などを運営している。県内では浜松市の「ホテルクラウンパレス浜松」や「グランドホテル浜松」を手がけ、既存ホテルの再生を得意としている。2008年には、日本郵政の保養宿泊施設「かんぼの宿」の入札にも参加した。

また、市長との会談では、来年4月9日につま恋を主会場に開催予定の「掛川・新茶マラソン」について、高井執行役員は「地元に迷惑をかけないようにする。（譲渡の）交渉が駄目でも、場所を提供し、ヤマハとして協力する」と述べた。不透明だった開催の展望が開けたことで、松井市長は「実施できるようになり、ありがたい。例年以上の大会にしたい」と話した。

ヤマハは、つま恋の譲渡先をめぐり、複数の企業と水面下で交渉を進めており、HMIを有力候補として詰め込みに入っている。いつ決着するかは未定という。掛川市が要請している、つま恋の名称を残すことや従業員の雇用継続に

時代の流れ 輝き失う

7 外コンサートだ。六万五
島みゆきさん、佐野元春
千人を動員し、「伝説の
さんら多くの若き才能を
28.12.28 コンサート」と称され
輩出した。
た。歌手デビューの登竜
しかし時代の移り変わ
りの中でその輝きは失わ
れていく。周囲に住宅街
ができたことで夜間に野
外コンサートを開くこと
は困難になり、レジャー
も多様化する中で利用者
は次第に減少。リーマン
・ショック以降は赤字が
続き、施設の老朽化も進
んでいった。

「フォークソングの聖地」として知られたヤマハ子会社運営のリゾート施設「ヤマハリゾートつま恋」（掛川市）が経営悪化を理由に二十五日に一般営業を終了し、四十二年の歴史に幕を閉じた。最終日には別れを惜しむ常連客らが県内外から大勢訪れ、ホテルのロビーでスタッフらと記念撮影をする姿が見られた。

ヤマハが営業終了を発

2016
しずおか
この
1年

つま恋 42年の歴史に幕

表したのは九月二日。「個人的にも思い入れの深い施設だ。経営努力を続けてきたが、将来の展望を描ききれなかった」。浜松市内で開いた会見で、ヤマハ関係者は苦渋の決断だったことを強調した。

ヤマハは一九六二（昭和三十七）年、当時の故川上源一社長が進めた経営多角化の一環として、リゾート事業に参入した。つま恋は七四年五月開業で、百四十万平方メートルの敷地にホテルや音楽施設、スポーツ施設などを備え、国内の滞在型リゾート施設の草分け的存在だった。

つま恋の名を一躍有名



ヤマハが25日に一般向けの営業を終了した「ヤマハリゾートつま恋」。手前がコンサートが開かれた第1多目的広場＝2013年、本社ヘリ「おおづる」から

ヤマハは近年、楽器と音響機器への「本業復帰」へと経営のかじを切り、不採算事業の整理を進めている。「つま恋」は負の遺産として経営にのしかかっている。構造改革のターゲットになった。ヤマハは掛川市からの要請も受け、「つま恋」の名称を残した上で、（土屋祐一、瀬戸勝之）